

若山牧水の歌碑を尋ねて

河野 百代

(会員・弥生町江良)



日向駅の牧水歌碑

日向市で国道十号線を右

折、耳川の清

流に沿って上

る。やがて四

四六号線に左

折、坪谷川の

溪流を眺めな

から車を走らせると、左前方に美しい尾鈴連峰が迫って

来る。

牧水の生家は東郷村坪谷の静かな山かいらにある。この家は弘化二年医師だった祖父が建てたもので、県指定史跡になっている。牧水記念館は昭和四二年十一月三日開館、牧水の長男若山旅人氏の設計である。館内には牧水の遺墨・遺品・写真・著書など四百余点が展示してあり、牧水の人となり心ゆくまで触れることができた。

記念館のすぐ後の小丘に登ると昭和二二年十一月に建てられた。

ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ

秋もかすみのたなびきて居り

の歌碑がある。自然石の巨石に牧水の筆跡で刻まれている。この歌は大正元年秋の作である。父の病気に帰郷して苦悩の日々を送っていた頃、この石の上に寝ころんで瞑想や読書に耽った由緒ある石である。

日向駅にも牧水の歌碑が建っていると館長に教えられ帰途立寄った。駅のホームに私が若い頃より愛誦していた歌

幾山河越えさり行かば寂しさの

終てなむ国ぞ今日も旅行く

の歌碑が建っていた。

この歌は明治四十年、数え年二十三才早稲田大学在学中、暑中休暇で帰省する旅の途中、岡山県で作った歌という。旅の詩人牧水の代表作ともされている。